

高野山・伊勢神宮参拝（その一）

—長崎史談会研修旅行記—

長崎史談会幹事 日宇孝良

長崎史談会では、10月25日～27日の二泊三日で高野山・金剛峰寺、伊勢神宮参拝見学をメインとする研修旅行を行った。旅行に参加した一員として旅行のつれづれを綴ります。文中の歌は同行した友人(即興の雅号で表記)の歌も含んでいます。

一行25名は25日午前7時に長崎空港集合。ANA162便で8:05に長崎空港を発ち、伊丹空港に9:15に着いた。そこから途中トイレ休憩を取りながら一路高野山に向かった。夏の台風の被害のため道路の補修工事が行われている箇所をしばしば目撃した。今回のコースが一部変更されたのもこの台風の影響による。

平成27年には「高野山開創1200年記念大法会」が行われるという。弘法大師御廟に至る道筋には戦国大名や江戸時代の諸大名の墓碑が林立していた。その中で最も巨大なものは、今年のNHK大河ドラマの主人公「江」の墓碑(供養塔)だという。高さが6メートル以上もある。

恩讐を 超えて眠る 高野山

織田も明智も 徳川もある (一如)

墓碑名に 歴史の重み 感じつつ

もみじ鮮やか 高野を巡る (夢迷)

夢うつつ 七里四方の 高野山

安土の城か 根本大塔



朱に映える根本大塔(高野山)

(嵯峨天皇から弘法大師がもらった山林が七里四方、その中で朱色の大塔の美しさに見とれた。信長はこれを見て安土城を造ったのかと思った…鳴滝)

旅行の全行程を立案し、案内された原田会長は、高野山の有名な墓碑と墓碑の間の近道まで知っておられて通常のルートでないところの石垣を越えたりして最短距離で進む。

脳内に 歴史の年輪 刻み込み

高野の墓地も まるで裏庭 (夢迷)

この日は高野山の「清浄心院」(下の写真)という宿坊に泊まった。今年の永平寺の場合と違って食事の前の



作法の指導とか、当然ながら座禅もなく、そんなに緊張する雰囲気はなかった。宿坊は伝統的にお世話する対象の県が決まっているのだという。翌朝6時45分から朝のお勤めがあり、僧侶のお話もあった。高野山が世界遺産に認定されたこともあって、最近では外国人が多く訪れていたのだが、東日本大震災の影響で3月以降キャンセルが相次いだとのこと。それでも、この日も小さなお子様連れの外国人や団体の若い外国人の一行が一緒にお勤めに参加した。金堂や根本大塔を参拝見学した後、高野山の大門前での記念写真を最後にして高野山を後にした。(次号へ続く)

高野山 朝の勤めのお話を

長崎育ちの 僧侶に聞く (幸多)

訂正

長崎史談会だより第1号は平成19年9月度行事案内からスタートしました。然るに発行No.が平成22年4月号No.32とすべきところNo.31としたため、そのまま平成23年11月号まで、ずれたままでいたところ、平成23年12月号で再度、前月と同じNo.を付けるという間違いをしていました。従って原点に戻ると2個のNo.がダブっていましたが、平成24年1月号より正式なナンバー「No.53」に訂正いたしました。(編集子)